

真偽問題 正しいものは「1」、正しくないものは「2」にマークしなさい。

- 問(1) へ長調とへ短調の、属音は異なる。
- 問(2) 短3度の補足音程（転回音程）は、長6度である。
- 問(3) 音の強弱差は、音の波長に現れる。
- 問(4) 「トルコ行進曲」の作曲者は、モーツァルトである。
- 問(5) マリンバは、打楽器に分類される。
- 問(6) エラールのダブルエスケープメントアクションの誕生は、堅型ピアノの誕生より遅い。
- 問(7) テーラーの公式によると、振動数は弦の長さの平方根に反比例する。
- 問(8) 最低音部の弦の打弦比は、およそ1/8である。
- 問(9) 駒・ピン板には、カエデが用いられることがある。
- 問(10) 弦の張力は、1本当たり約100kgwである。
- 問(11) 調律カーブが生じるのは倍音のずれによるもので、その原因は弦の加工精度によるものである。
- 問(12) オクターブ検査で用いられる、長3度：長10度では、それぞれの唸りが同じであればよい。
- 問(13) 33F-45Fで平均律割振を行った場合、A-Dの完全4度の唸りが基準より少ない時、D音は必ずしも低めとはいえない。
- 問(14) 33F-45Fで平均律割振を行った場合、33F-42Dの唸りは、33F-37Aより、わずかに少なくなる。
- 問(15) ピタゴラスコンマは、純正5度を繰り返すことで生じ、約24セントになる。
- 問(16) キースティックは、最初にフロントブッシングクロスとフロントピンの隙間を点検する。
- 問(17) グランドピアノの整調で、ベッディングスクリュー（すべり金具）を調整したときは、鍵盤の高さ・深さなどに影響する。
- 問(18) グランドピアノのハンマー接近（レットオフ）を調整した時は、レペティションスプリングの強さに顕著に影響する。
- 問(19) グランドピアノのジャックの高さ調整は、レペティションレバーと同じ高さにする。
- 問(20) から直し（ロストモーション）とは、ジャックとバットスキンの隙間とハンマーシャンクとハンマーレールクロスとの隙間が両方同時に、ゼロになるように調整する。
- 問(21) 黒鍵は、加熱により剥がすことができる。
- 問(22) バットスプリングコード（フレンジコード）が切れた場合、バットを交換する必要がある。
- 問(23) ブライドルテープが切れた場合、キャッチャーシャンクを抜いて交換する必要がある。
- 問(24) バランスブッシングクロスはリーマーで調整するとよい。

問(25) 自動演奏ピアノは、鍵盤とペダルを駆動するのに、電磁石（ソレノイド）が使われている。

多肢択一（4択）問題

各問から、適切なものを1つ選びなさい。2つ以上選ぶと誤答になります。

問(26) ト短調の説明として正しくないものを1つ選べ。

1. 調号は、フラットが2つである。
2. 属和音はニ長調の主和音と同じである。
3. 旋律的、和声的とも同じ音階である。
4. 平行調は変ロ長調である。

問(27) 音色について、正しいものを1つ選べ。

1. 楽音として感じられる音には、波形に規則性がある。
2. 音色は音波の振幅により変化する。
3. 音色は主観の問題であり、科学的な分析にはあまり意味がない。
4. ピアノの音は楽音であるので、持続音である。

問(28) 「トロイメライ」の作曲者を選べ。

1. リスト
2. シューマン
3. ショパン
4. ドビュッシー

問(29) 音の唸りについて、正しいものを1つ選べ。

1. 唸りは、共鳴という音の性質による。
2. 唸りは、回折という音の性質による。
3. 唸りは、干渉という音の性質による。
4. 唸りは、反射という音の性質による。

問(30) ホーキンス（米）の堅型特許の年代を選べ。

1. 1800年
2. 1821年
3. 1840年
4. 1862年

問(31) ピアノの手入れ・使用環境について、正しいものを1つ選べ。

1. 白鍵の亚克力材は、消毒用の薬品で割れることがある。
2. 黒鍵のフェノール材は、白鍵用の手入れ剤は使用不可である。
3. オールカバーは、防塵・防湿の両面において有効性がある。
4. ピアノにとって過度の湿気は大敵であるので、湿度が低いほど、ピアノの狂いが少ない。

問(32) ミュージックワイヤーについて、正しいものを1つ選べ。

1. ミュージックワイヤーの番手はすべて1/2きざみで使用される。
2. ミュージックワイヤーは、鍛造で製造する。
3. ミュージックワイヤーは、工業用ピアノ線とは規格が異なる。
4. ミュージックワイヤーは1台のピアノでは巻線を含めると、150本程度張られる。

問(33) 有効弦長について、正しいものを1つ選べ。

1. 打弦点から駒まで
2. チューニングピンからヒッチピンまで
3. ベアリングから駒まで
4. アグラフからアリコートまで

- 問(34) 響板について、正しいものを1つ選べ。
1. 響棒は木目に並行して取り付けられる。
 2. 樹種は、カバ材、カエデ材が使われる。
 3. 響板には合板は使用されていない。
 4. サウンディングボタンは、駒の位置に取り付けられる。
- 問(35) セント法について、正しくないものを1つ選べ。
1. セント法は、対数計算に基づくものである。
 2. 純正の長3度は、414セントである。
 3. 純正の短3度は、316セントである。
 4. セント法は、A. J. エリスにより考案された。
- 問(36) 平均律割振について、正しくないものを1つ選べ。音域は33F-45Fとする。
1. D-Gの5度は、純正より狭くなる。
 2. A-Dの4度の唸りが、基準の2倍の時は、およそ2セント高い。
 3. A-C#の長3度が基準より速い場合、C#は高めにずれていることが想定できる。
 4. 長3度の唸りの回数は、この音域ではF-Aが一番少なくなる。
- 問(37) 弦の振動数について、正しくないものを1つ選べ。
1. 弦の振動数は、弦の長さに反比例する。
 2. 弦の振動数は、弦の単位長さの密度の平方根に反比例する。
 3. 弦の振動数は、張力の平方根に反比例する。
 4. 弦の振動数は、張力の平方根に比例する。
- 問(38) 音律に関する記述で正しいものを1つ選べ。
1. ミーントーン音階は、完全5度の唸りをゼロにする。
 2. 平均律の半音は、振動数比が同じになる。
 3. 純正の長3度は、平均律の長3度より、16セント狭い。
 4. ピタゴラスの完全5度を12回繰り返した結果のずれは、22セントになる。
- 問(39) 共通倍音に関する記述で正しいものを1つ選べ。
1. 長6度の共通倍音は、低い音の3倍音になる。
 2. 長6度の共通倍音は、低い音の4倍音になる。
 3. 長6度の共通倍音は、低い音の5倍音になる。
 4. 長6度の共通倍音は、高い音の5倍音になる。
- 問(40) アクションの調整で工程として関連が一番顕著なものを1つ選べ。
1. 鍵盤の深さ（あがき）とから直し（ロストモーション）
 2. 鍵盤の高さ（ならし）とハンマーストップ（バックストップ）
 3. ハンマー戻り（ドロップ）とレペティションスプリング調整
 4. ダンパー掛かり（始動）調整とダンパー上り量
- 問(41) 1回の打鍵で、ハンマーが2度打ちする場合の原因と考えられるものを1つ選べ。
1. ブライドルテープが切れている。
 2. ハンマーストップ（バックストップ）が狭い。
 3. 鍵盤の深さ（あがき）が浅い。
 4. スプーン掛け（ダンパー始動）が大ききずれている。
- 問(42) ペダルについて、一番適切なものを選び。該当するものがなければ4を選べ。
1. ダンパーペダルは、踏むとすぐにダンパーが動くように調整する。
 2. シフトペダルは、踏むとすぐにアクションが動くように調整する。
 3. 左のペダルを踏み込んだ位置が、ハーフペダル効果を生む。
 4. 1～3に該当なし。
- 問(43) タッチについて、正しくないものを1つ選べ。

1. グランドピアノの同音連打の性能は、アップライトピアノの約2倍である。
2. ダンパー止音は、鍵盤の深さを約1/2戻した位置である。
3. 黒鍵の高さ（ならし）は、白鍵上面からおよそ12mmに調整する。
4. 鍵盤の深さ（あがき）を深くすると、ジャックの脱進量は小さくなる。

問(44) グランドピアノの整調について、正しくないものを1つ選べ。

1. ダンパー上り量は、ペダル突上げ棒の袋ナット調整で行う。
2. 黒鍵の深さ（あがき）は、白鍵を参考にして調整される。
3. ハンマー戻り（ドロップ）は、ハンマー接近（レットオフ）と関連する。
4. 打弦距離（ハンマーならし）を狭くしても、ハンマー接近（レットオフ）は変わらない。

問(45) 下記の記述で、適切でないものを1つ選べ。

1. チューニングハンマーのチップは、ピアノによりサイズを選んで使用する。
2. アクリル樹脂の鍵盤上面を剥がす時は、アイロンで加熱する。
3. 金属レール部のネジがゆるくなった場合は、金属片を詰めるとよい。
4. ネジがゆるくなった場合の埋め木は、堅木や竹ひごを用いる。

問(46) 張弦修理について、適切でないものを1つ選べ。

1. センターピンと弦を切るカッターは別のものである。
2. 弦の巻き数は、ピアノごと、音域ごとに異なることがあるので注意する。
3. 断線予防には、太い弦を用意する。
4. 手袋・ゴーグルなど使用し、作業の安全を図る。

問(47) 次の記述で正しくないものを1つ選べ。

1. 弦に防精油を塗ってはいけない。
2. 断線は金属の疲労が原因する。
3. 湿度が低い環境下で、響板割れという症状が出ることもある。
4. 口棒が内側に傾くと、白鍵スティックとなることがある。

問(48) 修理に関して、正しいものを1つ選べ。

1. ハンマーシャックが折れたときは、ハンマーヘッドも交換する。
2. バットフェルトは全面に接着剤を塗る。
3. グランドピアノのバックチェックスキンは、両端を接着する。
4. アップライトピアノのバックチェックフェルトは、両端を接着する。

問(49) センターピン交換の方法で適切でないものを1つ選べ。

1. ブッシングクロスにリーマー（ブッシングニードル）をかける。
2. ゆるめのピンの方が、木部が割れないのでよい。
3. トルクが低い場合、太いセンターピンに交換する。
4. バットプレートは、センターピンを固定している。

問(50) 消音ピアノの点検と調整の方法で正しいものを1つ選べ。

1. 消音型のアップライトピアノのハンマー接近（レットオフ）は、生ピアノと同じに調整する。
2. 調律時には、必ず消音状態で、ヘッドフォンで電子音の発音とペダルの効果を確認する。
3. 生ピアノの調整以外は、特に指摘がない場合は触らない。
4. 自動演奏装置のセンサーを調整すると、ピアノのタッチが変化する。